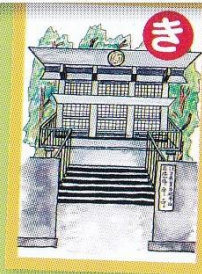
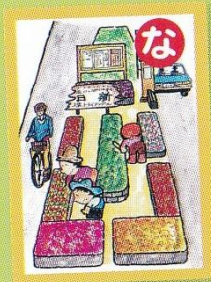


日新かるた

見て歩き

MAP



現在地
日新公民館
にられ 1112

な
丸田公園



「日新かるた」探訪マップ



乾徳コース

所要時間=約 60 分



コース順に解説しています。

わが地区の南北結ぶ七つの橋



乾徳橋 (わ-⑤)

日新公民館前の橋です。この橋は、昭和30年代になっても架かっていませんでした。そのため、花月橋通りも底喰川で行き止まりでした。昭和43年(1968)に開通し、現在の橋は平成7年(1995)に完成しました。



上里橋 (わ-④)

昭和8年(1933)乾新町(現乾徳)の区画整理が完了しましたが、牧ノ島に通じていませんでした。そこで、昭和10年(1935)木造の橋が架けられました。その後、昭和37年(1962)にコンクリートの橋になりました。現在の橋は、平成11年(1999)に完成しました。



乾徳1号橋 (わ-③)

昭和54年(1979)、西福井駅ビルが完成し、その駐車場への出入用として架けられました。平成14年(2002)底喰川が拡張されたのを契機に新しくなりました。

わが地区の南北結ぶ七つの橋



西福井乾徳橋 (わ-②)

昭和3年(1928)三国芦原電鉄の西福井駅が開業しました。しかし、駅の南側を東西に流れる底喰川には橋がなく、昭和8年(1933)に架けられました。これで乾新町(現乾徳)へ直接行けるようになりました。現在の橋は平成18年(2006)に完成しました。

2 明治の大水害底喰川改修碑つくる



底喰川改修碑 (2)

底喰川は、下流で著しく曲がっていたことから、わずかの雨でも水害が発生し、住民を苦しめていました。明治30年(1897)に有志が底喰川水害予防組合を組織し、7年の歳月をかけて改修工事が行われました。この時の偉業を、後世に伝えようと大正13年(1924)に改修碑が建立され、平成18年(2006)に西福井けんとか橋付近に移築されました。

わが地区の南北結ぶ七つの橋

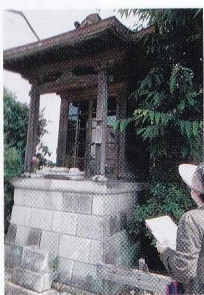
2 権現堂橋昔の名前は権現橋



権現堂橋 (わ-①、㉔)

江戸・明治時代から、福井の玄関口として、牧ノ島・三国へ出る重要な道に架けられた橋です。昭和32年(1957)コンクリートの橋になり、平成16年(2004)に現在の橋に架け替えられました。

1 きつねのいたずら金仏様財源寺



かなぶつどう
金仏堂 (1)

乾徳1丁目にある金仏様は、三ツ橋地方の耕地整理より以前に建てられました。そこは、水田の中で、当時乾徳の中心であったようです。この辺りは寂しく、狐が出て人を化かしたので、筋かい橋近くのお菓子屋さんが、多くの一文銭をとかしてお釈迦様を作り、お堂を建てて祀りました。以後、狐は出なくなっただけです。

き きみょうじ ほうとうまも さんびやくねん 帰命寺は法灯守り三百年



きみょうじ
帰命寺 (き)

乾徳山帰命寺は、貞享元年(1680)西本願寺末寺として西別院門前に開基され、顕性によって創建されました。その後、昭和9年(1934)に現在の乾徳2丁目に移されました。長い歴史を持つ帰命寺は、地区の「お寺さん」として親しまれています。

5 みょうほうじ ほうれんげきょう まんだらぶつ 妙法寺法蓮華経と曼陀羅仏



みょうほうじ
妙法寺 (5)

本寺院は、法華宗大本山本能寺の末寺です。不二院日現上人が浪速中町(田原1)に創建し開山しました。明和(1764~1772)年間及び文久(1861~1864)年間に大火にあい焼失したので仮本堂が建立されていました。昭和5年(1930)、本堂及び庫裏を再建し、昭和23年(1948)、現在地(乾徳3)に移転しました。

4 まんだら しんじんぶか みょうしょうじ 曼陀羅の信心深き妙性寺



みょうしょうじ
妙性寺 (4)

本寺院は、延徳(1489~1492)年間に僧通観によって一乗谷に創建され、善行寺と号しました。慶長(1596~1615)年間に第五世日進上人により、福井市中島に移転して妙性寺と改号しました。元禄(1688~1704)年間に若松町(つくも2)へ、昭和10年(1935)に現在地(乾徳3)に移転しました。

3 しよ き しゅうかいじょうぜんこうじ べついん いまはなき初期集会場善光寺別院



ぜんこうじべついんあと
善光寺別院跡
(3)

昭和51年(1976)7月、乾徳2丁目日新公民館事務所が設けられました。しかし、狭いために乾徳3丁目の善光寺別院を利用して、公民館の各講座・集会活動を行いました。寺院とはいうものの、住宅内の広間に仏像を安置しただけのものでした。

7 ちく じまん ふくしょう や きゅう 地区の自慢は福商野球



ふくいしょうぎょうこうこう
福井商業高校 (7)

大正11年(1922)創部。昭和5年(1930)現在地に移転し、昭和11年(1936)甲子園初出場を果たしました。昭和43年(1968)北野尚史氏が監督に就任し、昭和46年(1971)の選抜大会出場以来、昭和53年(1978)の選抜大会での準優勝、平成8年(1996)夏の選手権大会での準決勝進出など、甲子園の常連校となりました。平成23年(2011)からは、新監督のもと、新しい歴史をさざみつつあります。

8 法灯四百年の金西寺



金西寺 (8)

城秀康公ゆかりのお寺で、

曹洞宗のお寺です。慶長6年(1601)下総国結城(茨城県結城市)の東存が中島村(福井市勝見付近)に建立したのが始まりです。その後若松町に移転し、さらに昭和11年(1936)当地に移りました。徳川家康の次男・結

正面の門扉には葵の紋が大きく刻まれています。

わが地区の南北結ぶ七つの橋



境橋 (わ-6)

江戸時代の慶長10年(1605)頃からあるとされる橋で、三ツ橋口から境村を通り、さらに明治橋から越前海岸への道筋の橋です。最近では、平成2年(1990)に底喰川の幅を拡げる工事に伴って掛け替えられました。



新境橋 (わ-7)

昭和40年(1965)に完成しました。それ以前は、境橋と三郎丸橋の間の馬橋を使っていました。しかし、底喰川の北側にも住宅が建ちならび、交通量も多くなってきたため、橋が架けられました。

10 水際に生きるミソハギ・ショウブ



水際に咲くミソハギ・花ショウブ (10)

美しい地域のまちづくりの一環として、平成12年(2000)、底喰川の水際に生きる草花の植付けをしました。この川は、平成10年(1998)に福井県が、親水空間として改修しましたが、まもなく雑草で景観が損なわれました。このため「空間」を生かそうと住民ボランティアが草刈り等を実施し、草花の植付けが可能となりました。

9 底喰川で魚釣り楽しむ子ども達



親子で魚釣り (9)

「底喰川ウオッチング」では、川の現状と生きものの生態系を知り、環境に関心を持ってもらおうと、魚釣りと魚拓づくりを体験しています。底喰川は、日新地区の親水空間として親しまれていますが、以前この川は「ゴミ捨て場」と言われ汚い川の代名詞でした。地区住民の美化意識の向上により、今では魚や多くの生きものが棲むようになりました。

つがい鴨たがいにいとむ底喰川



戯れる親子鴨 (9)

底喰川には、フナ、コイ、ウグイなど多くの生きものがいます。また、堤防からは鴨の群も見ることができます。ときには親子が水中に潜ったりして遊んでいます。その姿から家族愛、夫婦愛を感じさせてくれます。

文里・堀ノ宮コース

所要時間=約 60 分



な 七色に三角花壇の花が咲く



さんかくこうえん
三角公園 (な)

市道、西循環線に面した文京5丁目にある約50㎡(15坪)ほどの三角形の公園です。「上里トライアングル」とも言われ、地区の人に親しまれています。近くの婦人ボランティアによって季節にあった花の植付け、水やり、草取りなどで管理され、行き交う人々の目を楽しませてくれています。

た 太鼓大好き文里子ども太鼓



ふみさとこ だいち
文里子ども太鼓 (た)

昭和60年(1985)、上里の祭りに「太鼓の響き」として誕生しました。当初は、上里の親青会メンバーが主でしたが、郷土の思い出にと地区の子供達にその技を伝承してきました。今では、地区のイベントにも出演しています。

17 ようすい い さんがようすい し かがようすい 用水と言えば三ヶ用水・四ヶ用水



さんがようすい
三ヶ用水 (17-①)

三ヶ用水は、牧ノ島、上里、堀ノ宮の3ヶ村への農業用水であるためこの名があります。文京3~6丁目の福井西循環線界隈を流れて堀ノ宮で新川と合流し、底喰川へと流れています。

13 先ず虹の会より福祉を学ぼう



虹の会福祉作業所 (13)

昭和60年(1985)、知的障害者通所授産施設「虹の会福祉作業所」(文京5)が開設され、その後、数々の施設が併設されました。知的もしくは身体に障害のある人を対象として、個々の能力に応じた日中活動(作業や創作等)への支援や本人の意思を尊重したうえで、自立した日常生活が営まれるよう必要なサービスも提供しています。

5 ちえの木こころの木からだの木



日新小学校 (5)

日新小学校は昭和51年(1976)に開校。それに併せて「教育目標」や学校の木として「かしの木」が制定されました。この木には子供達(こどもたち)が堅実で、たくましく大地にしっかりと根を張って成長してほしいとの願いが込められています。

14 み仏のところで育つ園児たち



花園幼稚園 (14)

昭和48年(1973)、霊泉禅寺(文京5)が当地に移転したときに花園幼稚園も建てられました。美しい心、明るくたくましい子どもに育ててくれることを願って、幼児教育に取り組んでいます。

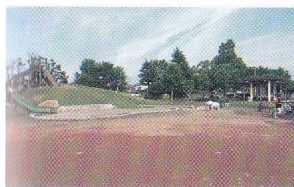
15 野球少年日新グラウンドで技みがく



日新グラウンド (15)

日新小学校の北側にある日新グラウンドでは、連日、少年達が汗を流しています。学童野球大会に出場し、準優勝の実績もあります。当地には福商野球部があり、この少年達のよき目標になっています。

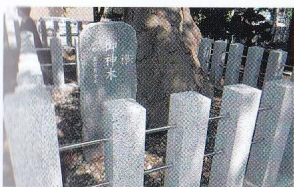
16 区画整理で大規模公園産む



西藤公園 (16)

福井市西部第二区画整理事業(昭和41~50年)が、道路の配置と周辺地域の利便性の向上・緑地確保を目的に行われました。西藤公園は、この事業の一環として昭和47年(1972)上里北と八ツ島の境に造成されたものです。昭和58年(1983)には東側にソフトボールグラウンドが、昭和61年(1986)には西側の公園に遊具設備と植栽工事が行われ整備されました。面積17,652㎡(5,350坪)は、地域の約3%で1街区をなしています。

けやきの木堀ノ宮地区守ってます



白山神社御神木 (17)

堀ノ宮の鎮守様「白山神社」には永年生き延びてきた樹齢五百有余年の「欒」の木があります。木の先端部分には補修養生したところもありますが、それだけに永年の重みと威厳をただよわせています。「御神木」として地区の人の管理で大事に育てられています。

すいじゆんてんかわだこうえん ろく
④ 水準点川田公園はハイ六メートル



すいじゆんてん
水準点 (す)

川田公園には、地形などを計測する時、その高低の基準となるところを定めた水準点(海拔6メートル)があります。地殻変動・地盤沈下の基礎データをとるときに使用されるもので、地形測定にとっても重要な地点ということになります。

むかしこあざいかわだまるたゆうどうこうえん
④ 昔の小学が生きてます川田・丸田・夕道公園



田圃の小学名を公園名にして残したのが、川田(文京6)・丸田(文京5)・夕道(大宮6)の各公園です。地区名を公園の名前にすることによってさらに親しみを感じさせます。これらの公園は、昭和41年(1966)から始まった福井市西部第二土地区画整理事業によって造られました。

かわだまるたゆうどうかくこうえん
上から川田・丸田・夕道の各公園 (④-①) (④-③) (④-②)

じどうかん そだ
④ ひまわり児童館こどもすくすく育てます



じどうかん
ひまわり児童館 (④)

ひまわり児童館は、平成5年(1993)福井市で最初に開設されました。放課後等に低学年児童を集め教育活動を行っています。その他、読み聞かせや乳幼児のための子育て支援も行っています。

にっしん にちにちそう
④ 日新のシンボルフラワー日々草



シンボルフラワー
 にちにちそう
日々草 (④)

日々草は「日新」を連想させることから、日新の花として平成10年(1998)に定められました。茎の先に花をつけ、可憐ながら太陽に向かって咲いている姿に頑張りを感じます。また、育てやすく、開花期間も長くシンボルフラワーとして親しまれています。

らくせいしききねんひきねんじゆはな
⑤ 落成式記念碑記念樹が華そえる



きねんひ きねんじゆ
記念碑・記念樹 (⑤)

現在の日新公民館は、平成17年(2005)10月に竣工され、記念式典が行われました。これを記念して、公民館前に記念碑が建てられ、松の木が植えられました。公民館の正面ではこの記念碑・記念樹が私たちを迎えてくれます。

かぞくそうで さくせん
⑥ 家族総出でクリーン作戦



いつせいせいそう
一斉清掃 (⑥)

福井市住民運動に併せて、当地区でも3・7・11月にクリーン作戦(一斉清掃)を日新自治会連合会主催で実施しています。清掃には、大人、親子はもとより中・高生も積極的に参加しています。参加人数は、それぞれ150名前後で、地区の環境美化活動の輪が年々広がってきています。これは継続の賜物と言えるでしょう。また、3~11月の第4日曜日には底喰川定例清掃も行っています。

ちくみん ばこうみんかん
11 地区民のいこいのたまり場公民館

れきし わら
12 歴史あり笑いもありの公民館

てづく かどまつ いわ
12 手作りのミニ門松でお祝いだ



にっしんこうみんかん
日新公民館 (11)



公民館まつり (12)



かどまつ
ミニ門松づくり (12)

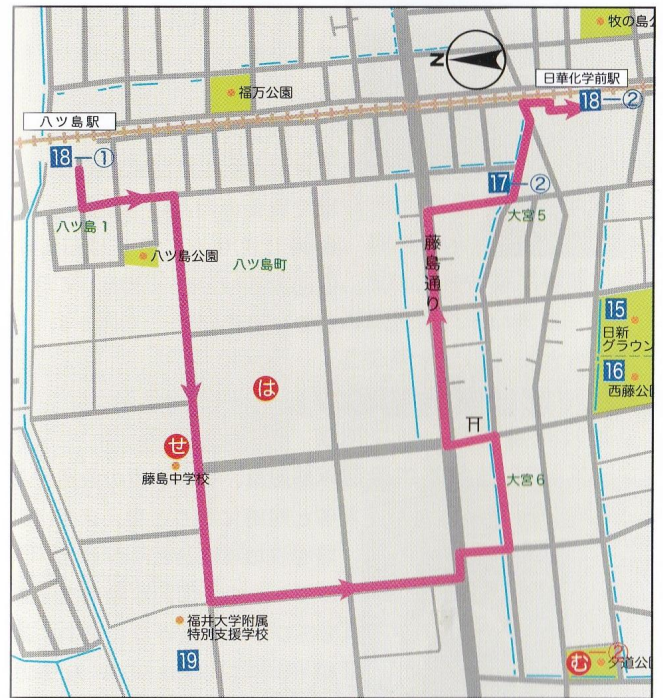


ぬの
布ぞうりづくり (11)

「公民館は住民の自由なたまり場です」の言葉通り、赤ちゃんから高齢者まで幅広い年齢層に親しまれ、交流・仲間づくりの場として利用されています。その他、生涯学習、文化創造等々、集団活動の拠点としての役割をもち、地域活性化の一役を担っています。公民館まつりは公民館の最大イベントで多くの地区の方が集います。また、地区の有志の指導によりミニ門松づくりを子ども中心に大人も体験し、気持ちもあらたに新年を迎える準備をしています。さらに、「まちづくり日新」の活動の一環として、「捨てる前にもう一度考えよう」と古布を使って、布ぞうりづくり講習会も行っています。

宮島コース

所要時間=約 60 分



てつどう やつしま にっか がくまええき の
18 えちぜん鉄道ハツ島・日華化学前駅から乗りましょう



やつしまえき にっか がくまええき
ハツ島駅・日華化学前駅 (18-1) (18-2)

平成 14 年 (2002) 9 月にえちぜん鉄道株式会社が設立され、翌年 2 月三国芦原線を引き継ぎ、8 月に全線営業を再開しました。平成 19 年 (2007) 9 月にハツ島駅 (二の宮 5)・日華化学前駅 (大宮 4) が新に作られました。これにより、日新地区には、福大前西福井駅とあわせて 3 駅となり、大変利用しやすくなりました。

はる あき こがね でんえん ちたい
16 春はみどり秋は黄金の田園地帯



でんえんふうけい (は)
田園風景

ふじしまちゅうがっこう 藤島中学校のまわりには田圃が広がっています。近くには武道館、遠くには深谷の山々を望むことができます。春には早苗の緑の絨毯、梅雨時にはカエルの大合唱、秋には見事に実った稲穂で黄金の海となります。四季を感じさせるこのすばらしい田園風景は心の古里としていつまでも残ってほしいものです。

せいふく けんないはつ がたふじしまちゅう
17 制服は県内初のブレザー型藤島中



ふじしまちゅうがっこう せいふく
藤島中学校と制服

制服は、その学校の象徴であると同時に誇りと言えます。制服を決めるに当たり保護者のアンケートや全国的な動向を考慮してブレザー型が採用され、昭和60年(1985)の新入生から着用し、3年で変わりました。茶色は生徒の将来の成功を期して、落ち着きを持たせています。

へきが むか ふぞくとくべつ しえんがっこう
19 アイオ氏の壁画が迎える附属特別支援学校



ふくい だいがく ふぞく
**福井大学附属
 特別支援学校 (19)**

昭和46年(1971)開校。知的障害児を対象とした県下で最初の特別支援学校です。小学部、中学部、高等部を置き、全校児童生徒定数は60名で、12年間を通して「生活教育」を推進しています。アイオ(愛囀)氏製作の大壁画「平和の楽園」は学校のシンボルです。

ようすい い さんがようすい し かがようすい
17 用水と言えば三ヶ用水・四ヶ用水



し かがようすい (17-②)
四ヶ用水



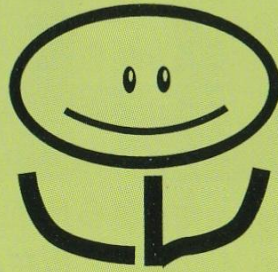
送水ポンプ場

四ヶ用水は、八ツ島、堀ノ宮、西堀、三郎丸の4ヶ村への農業用水であったことからこの名があります。文久元年(1861)以来、福井城下の西御坊地籍内の泉水下から何回も堀替えが行われ、現在の水路となっています。水は、今では八ツ島地区のみに流されています。

この用水には、送水ポンプ場が設けられています。八ツ島町には、農業振興区域に未整備の農地が20畝残っていました。この農地は、湿田であり用排水等の問題が多く、水田再編事業の受け入れが難しい状態でした。これを解決するため、建設省(現国土交通省)の日野川大改修で出た川土を入れ約1m盛り土し、大型圃場に整備されました。パイプラインによる用水、完全舗装された農道等を備えた汎用農地に生まれ変わりました。ポンプは、敷設したパイプライン(水路)で水田に送水するためのものです。昭和63年(1988)に完工しました。

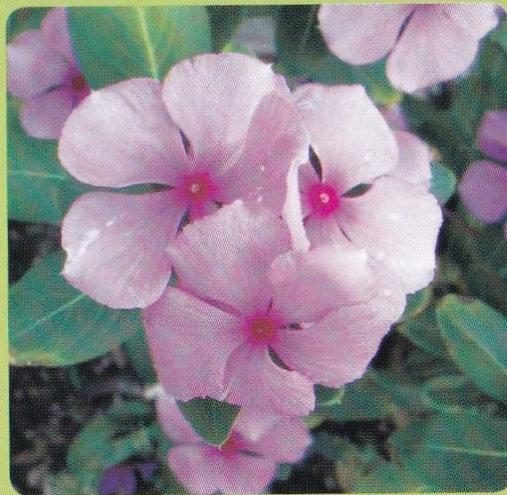


さまたま あらわ
**底喰川の様々な取り組みを表したちぎり絵
 (平成22年度製作)**



日新地区のシンボルマーク

「日新」の文字通り、お日様に顔を向け
両手でそのエネルギーを受け止めている
元気な花のイメージです
花の部分は「日」を、茎と葉の部分は
「し」「ん」を表しています



発行：福井市日新公民館
福井市文京 5-1-8
TEL 0776-21-7225

作製：いきいきライフセミナー
(平成 25 年度)